



行政視察等報告書

安来市議会議長 様

報告者 会派 燦友会
議員 作野 幸憲

この度、行政視察を行いましたので報告します。

記

期日 平成28年11月16日 ～ 平成28年11月18日

行先 愛知県北名古屋市
同 東海市
同 豊橋市
同 半田市

日程 別紙のとおり

参加者 上廻芳和、金山満輝、遠藤孝、井上峯雄、石倉刻夷、作野幸憲
合計6人

同行者 公明党 佐々木厚子

視察内容 別紙のとおり

行政視察報告

(会派 燦友会)

<視察目的>

・愛知県北名古屋市

閉じこもりがちな高齢者等を対象に回想法を実践することにより、新たな介護予防事業を起こし、地域ケアの実践の場として介護予防、地域づくりを図ることを目的にしておられ、是非とも安来市の新たな介護予防策として活用できないかを勉強するため。

・愛知県東海市

食（トマトなど）と運動をマッチングし、市民一人ひとりが生きがいを持ち健康に暮らすことができる生活環境整備を推進しておられる東海市を視察することによって、安来市の新たな健康増進施策の参考にするため。

・愛知県豊橋市

安来市を世界・全国の多くの人に知ってもらうため、シティプロモーションの先進地豊橋市を視察し、そのノウハウを少しでも吸収し、安来市の定住施策や観光に活かすため。

・愛知県半田市

スマホを使った無料アプリで道路の損傷や水路の問題など市に寄せられる様々な課題に対し、簡便にそして迅速に対応できるこのシステムを安来市にも導入できないか考えたため。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
平成 28 年 11 月 16 日 (水)	愛知県北名古屋市	北名古屋市役所 東庁舎ほか	思い出ふれあい（回想法）事業について
平成 28 年 11 月 17 日 (木)	愛知県東海市	東海市しあわせ村	いきいき元気推進事業について
平成 28 年 11 月 17 日 (木)	愛知県豊橋市	豊橋市役所	シティプロモーション認定事業について
平成 28 年 11 月 18 日 (金)	愛知県半田市	半田市役所	マイルポはんだ事業について

センター整備など程よく充実されていた。また平成 28 年度の運営経費も職員人件費を含め 840 万円程度で費用対効果は確保されていると実感した。現在安来市では「サロン」が開設され、町内会等で取り組まれているが、参考とする事案は多々ありました。

2. 愛知県東海市

●対応者： 東海市市民福祉部健康福祉監 坂 祐治様
東海市議会事務局議事課課長 松田 直樹様
// 主事 浅井 亮子様ほか

●場 所：東海市しあわせ村保健福祉センター

●概 要：

「いきいき元気推進事業について」

東海市は県内の自治体の中で平均寿命が低いことなどから、市民一人ひとりの健康づくりを応援するため、行政組織内の連携や商工会議所、運動施設、飲食店、医師会などの関係団体との連携を図り、市民に身近な場所で気軽に健康づくりに取り組みやすい環境づくりを展開しておられます。

取組の具体的内容は健康診断の結果等から、個人にあったウォーキングペース、筋力トレーニングや食事の目安量を「運動・食生活応援メニュー」として無料で提供しておられました。この応援メニューに示された自分にあった運動や食事が体験できる公共施設・民間施設を「健康応援ステーション」として市が認定し、運動習慣のない方を中心に健康づくりの取り組みを支援しておられました。

現在までの実績・成果としては、

運動・食生活応援メニューの提供者数 …… 924 人(H27 年度実績のべ 3610 人)

トレーニング室利用者数 …… 8,436 人(H22 年度) → 24,212 人(H27 年度)

食生活ステーション数 …… 現在 35 店舗

受賞：第 1 回健康寿命をのぼそう！アワード「厚生労働省健康局長 優良賞」、自治体

総合フェア 2013 第 5 回
「活力協働まちづくり推進団体表彰優秀賞」などでした。

〈考察〉財政力指数も極めて高く、住みよさでも上位に位置する東海市は、平成 21 年の市長選挙の公約で「市民の健康づくりと生きがいづくり推進」を基本に、「しあわせ村」を中心に「いきいき元気推進事業」が展開



されてきました。企業との連携も多くあり、特にカゴメ株式会社とは、健康推進プロジェクト協定を結んでおられ、「トマト健康 de 健康まちづくり条例」により、トマトジュースによる乾杯の推奨など様々な連携がありました。また拠点となっている「しあわせ村」周辺の公園は、ウォーキングペースが体感できる表示の園路があり、そのほかにも市民が気軽に参加できる公園が市内 10 カ所あるという説明も受けました。市民一人ひとりの健康づくりを応援するため、行政組織内の連携や商工会議所、運動施設、飲食店、医師会などの関係団体との連携を非常にうまく取っておられました。安来市でも医療費や介護費用削減のためにとっても参考になりましたし、連携のあり方などを積極的に提言していきたいと思えます。

3. 愛知県豊橋市

- 対応者： 豊橋市議会事務局議事課課長補佐 杉浦 寿実様
 豊橋市企画部シティプロモーション課長 豊田 達也様
 // 課長補佐 齋藤 敏様
 // 主査 中澤 浩英様

●場 所：豊橋市役所

●概 要：

「シティプロモーション認定事業について」

豊橋市は、豊かな自然、恵まれた地理特性、バランスの取れた産業構造、歴史と伝統ある文化といった多くの特長と魅力がありながら、外から見た認知度やイメージの浸透度は決して高くないことから、もっと全国から知ってもらうため、平成 21 年に「シティプロモーション戦略ビジョン」を策定され、行政、市民、事業者、大学および関係団体等が手を取り合い、一体となって取り組んでおられました。

特にその中でも「シティプロモーション認定事業」は、民間で行えるシティプロモーション活動を資金面以外でサポートする事業で、気軽さと認定を受けやすいということから今年も今までに 12 件の認定があったそうです。この事業のメリットは、とにかく民間企業や市民とのつな



がりができること
 で、民間・市民がシ
 ティプロモーション活
 動に積極的に取り組
 んでもらえることだ
 そうです。

〈考察〉豊橋市は愛知県第 2 の都市であるけれど、さらなる発展を模索するため平成 21 年に「シティプロモーション戦略」を策定され、

22年には推進計画（アクションプラン）の策定。そして担当部局（推進室）を設置し、28年には推進計画第2弾と同時に「室」から「課」に改名。このことから市長のトップセールスが見える気がする。また市民が投稿した動画ビデオが紹介され、それを見ると、市民がいかにシティプロモーションに参加し参画していることが伺えた。最後に担当者からあったキーワードが今後の安来市のシティプロモーションのヒントとなると思う。それは「スピーディ」「チャレンジ」「情熱」「遊びどころ」。とても参考になる行政視察であった。

4. 愛知県半田市

●対応者： 半田市議会副議長 久世 孝宏様
半田市企画課広報情報担当 岩田 隆一様
半田市議会事務局 堤 様

●場 所：半田市役所

●概 要：

「マイレポはんだ事業について」

この「マイレポはんだ」は、市民らがスマートフォンを使って道路・公共設備の陥没や損壊をスマホのカメラで撮影し投稿すると、市の担当者に情報が届き対応してもらえる修繕などにつなげていく市民参加型の投稿システムで、運用が始まって約2年です。行政視察も多く2年間で30件の視察を受け入れておられるそうです。投稿数は2年間で約450件で、順調に成果を上げてきておられます。新たな「市民参加型の都市作り」の一例として、各自治体や議員からの注目をうけている事業です。



〈考察〉このシステムは市役所企画課が窓口としてそれぞれの担当課に指示をだし、市民協働課で確認されるシステム。運用されて2年まだまだ課題はあると思われる。その一つは全市が運用体制をもっと理解すること。もう一つは安来市に置き換えた場合、半田市とは違い面積が広く（半田市47㎢、安

来市420㎢）、市道等の管理体制から、苦情に似た投稿に耐えられる体制が組めるか（半田市では懸念されていた不適切な投稿は今までないとのこと）など。しかしながらシステムの経費は月3万円。今後の安来市の経費削減や事業の効率化を考えると、十分検討する余地はあると思う。

以上